



2008年09月24日 (水曜日)

美ら島の提案～未来へ残せるか沖縄の姿～ 酒粕で土を変える



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 酒粕混合液が、赤土流出防止と土質の向上の力キを握る、と考えている



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 酒粕混合液が、赤土流出防止と土質の向上の力キを握る、と考えている  
 社会への企業還元として、いい形で使っていただけたらと思います



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 酒粕混合液のpH「3.7」●強い酸性



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 液の中の微生物などを主に行きわたらせるため大量に撒く



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 大嶺英恭を見学した  
 こういうのは理屈は分かるんだけど現実に出るといのは見たこともない



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 株式会社オオバ 洲上浩一さん  
 (液が行きわたると)土がしっかりと団粒構造を持つてくれる(崩れにくい)ので



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 堆肥を加えた2種類の畝と、加えない畝のそれぞれで、土質の変化を調べる



美ら島-提案- 酒粕が土を変える  
 耕すと混合液が腐ってしまうため夏場で3～4日放置すれば土作り終了

県内では大雨が降るたび、農地や建設現場から赤土が流出することが長年の課題となっています。ところがその赤土問題の解決の鍵が、意外にも身近なところで見つけられ、注目を集めそうです。

金武町の酒造廠を訪ねた、洲上浩一さん。沖縄の土壤改良を研究している洲上さんは、この酒造廠からあるものを譲ってもらうために訪れました。それはこの液体。泡盛を作るときに出る米のとき汁に、EMや酒粕などを混ぜたものです。

洲上さんは、廃棄物を利用した酒粕混合液が、赤土流出防止と土質向上の2つの課題解決の鍵を握ると考えています。崎山酒造廠は、そんな洲上さんの研究に賛同し、米のとき汁と酒粕を提供しているのです。

崎山酒造廠・崎山淳子さん「土壤改良に使っていただくというのは、社会の企業還元として、いい形で使っていただけたらと思います」

これまではモロミ酢の原料か、畑の肥料などに使われる意外には用途がなかった酒粕と、廃液である米のとき汁。いったいどうやって利用するのでしょうか。

洲上さんは1000リットルの酒粕混合液をもらい、今帰仁村の実験場所となる畑にやってきました。

この畑では3つの方法で土作りをして、作物の出来の違いを見るといいます。さっそく酒粕混合液を攪拌し、ペーハーをチェック。「3.7」の数値は強い酸性であることを指しています。液の状態は良好なようです。

さっそく、畑に酒粕混合液をまき始めました。大量にまくのは、液に含まれる微生物などを土に行き渡らせるため。しかし、通常、弱酸性の土質が良いとされる葉物野菜の畑に、強い酸性の液体はあうのでしょうか。

大嶺英恭・今帰仁村副村長「こういうのは理屈上は分かるけど、現実にできるというのは見たことも無い」

株式会社オオバ・洲上浩一さん「(液がいきわたると)土がしっかりと団粒構造を持つてくれるので、農地としても良いもの、あとは赤土も出なくなるような土に変わっていく」

混合液でひたされた畑に、今度は2種類の堆肥をかけていきます。畝ごとに堆肥を分け、土質の変化を調べるのです。

この土作りの最大の特徴は、混合液をまき、堆肥をかけ、終わっても耕さないこと。耕すと、混合液の微生物などが空気に触れ、腐ってしまうからです。何もせず、3日から4日放置すれば土作りは終了です。

耕さずに土が良くなれば、労力の大幅な軽減が期待でき、高齢者でも農業がしやすくなります。雑草の繁殖を抑えるなど、実用性が高まれば、その先に農家の収入アップも見えてくるかもしれません。

そして、一方で期待される赤土流出防止の効果。こちらは実験をしてみました。

久田記者「こちらが北部の典型的な赤土・団頭マージです。そしてこちらが、同じところで取れた団頭マージを泡盛の酒粕で処理した土です。同じ量の水をかけて、実験してみました」

2008 / 12 / 19 / 11 : 42

実弾事件で県議会 実弾射撃訓練中止求め決議へ

雇用不安 仲井真知事がトヨタ自動車に要請

那覇市で交通事故 横断歩道歩行中の男性死亡

2008 / 12 / 18 / 19 : 54

銃弾事件 米軍の弾とはまだ断定できず

大型スーパーで防犯を強化

2008 / 12 / 18 / 18 : 28

来月にも被害者が裁判参加

那覇市が就職相談窓口開設へ

中学校教師が飲酒運転で逮捕

2008琉球の姿CHANGE  
 県内にも大きく影響～経済～

締めくくり

News Back Number

もどる



**団粒構造**

土が小さな団子状で、崩れにくい構造の状態

その「森づくり」のような形をとれば  
耕さないでできる方法が成り立つのでは

原料の酒粕、米のとぎ汁を「地産地消」

しつこいと思いきや。」

結果は歴然。処理された土はほとんど赤土が流出しませんでした。

久田記者「ちゃんと表面の粒粒した感じが残ってます」

淵上さん「団粒構造といいますが、いわゆるその粒々した状態を保つので、スツと水がはけますし」

団粒構造とは土が小さな団子のような状態で、崩れにくい構造のことです。団粒構造が弱い赤土に、酒粕混合液を染み込ませて処理すると、構造が強くなっているようです。構造が強くなると、大雨が降っても、土が水に流れ出しにくくなるというわけです。

淵上さん「森を見ると、森では赤土が全然出てこない。連作障害が起こってるわけでもない。その森の土作りのような形を取れば、もしかしたら上手く、耕さないでできるものが成り立つんじゃないかなという風に(考えた)」

誰も耕さなくても肥沃な「森の土」のイメージで、沖縄の土作りを変える。もともと赤土流出防止の技術として研究をはじめた淵上さんですが、農家にもメリットがあり、取り組みやすい赤土対策を確立したいと意欲に燃えています。

淵上さん「その中(研究内容)にやはり、耕す土作りの大変さ、そういうところも上手く支援が来ていければ」

原料の安定供給など、乗り越えなければならない壁もありますが、酒粕と米のとぎ汁という「廃棄物も地産地消」というアイデアに夢が膨らみます。

良い土壌を作るには汗水流して土を耕し、肥料を与えるのが現在の農業では常識だと思うんですが、この方法だと畑を耕す労力もいらず、作物の出来を良くして海も汚さないと言うのですから、まさに常識破りの試みです。今までの赤土流出防止策は畑の周りへの植栽や畑の勾配修正など、農家の負担が大きいですから、新しい技術として

確立すると面白いかもしれません。



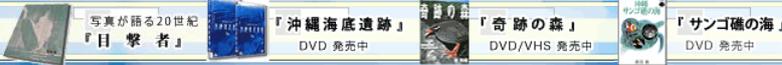
月～金、夕方6時28分 ON AIR



[BACK to QAB TOP PAGE](#)



**SHOPPING**



会社概要; 番組審議内容; サービスエリア; 青少年に見てもらいたい番組; 放送基準の改正について; 個人情報について; 採用について; ADAMS-Pについて; リンクインデックス



Copyright © 2006 QAB 琉球朝日放送